

都市再生整備計画 事後評価シート

第2期松橋駅周辺地区

令和4年2月

熊本県宇城市

都道府県名	熊本県	市町村名	宇城市	地区名	第2期松橋駅周辺地区			面積	22.8ha						
交付期間	平成29年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	487百万円	国費率	0.4								
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(松橋駅東口駅前広場)、地域生活基盤施設(松橋駅東口自転車駐輪場、松橋駅西口自転車駐輪場、松橋駅西口駐車場、松橋駅西口ポケットパーク、案内・情報板)、高質空間形成施設(シェルター、照明)												
		提案事業	地域創造支援事業(情報発信コーナー整備、観光案内マップ・パンフレット作成、まちづくりイベント)、事業活用調査(事業効果分析)												
		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(市道御領駅前線)		・地権者の合意が得られず用地買収を断念したため事業を削除			・影響なし							
		提案事業	事業活用調査(空き店舗対策調査)、まちづくり活動推進事業(松橋駅周辺まちづくり勉強会)		(空き店舗対策調査)・他事業で実施(松橋駅周辺まちづくり勉強会)・地域住民主体で実施することとなったため事業を削除			・影響なし							
	新たに追加した事業	基幹事業	—		—			—							
		提案事業	—		—			—							
交付期間の変更	当初変更	平成29年度～平成31年度(2019)平成29年度～令和2年度(2020)	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		・影響なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	歩行者の安全性に関する満足度	ポイント	3.08	H28	3.36	R2	モニタリング	評価値	3.35	△	あり	案内・情報板、シェルター、照明灯の整備により、駅前周辺における、安全・安心な歩行空間の確保、駅利用者の利便性が向上し、利用者の満足度が向上したが、東口駅前広場整備が遅れたこと等により目標は未達成となった。	令和4年11月	
												なし			
	指標2	松橋駅利用者数(乗降客数)	人/日	3,499	H28	3,499	R2	2,680	×	あり	駐輪場や駐車場、シェルター、照明灯、情報発信コーナー等整備により駅利用者の利便性の向上を図ったが、昨年度から続くコロナウィルス蔓延の影響により乗降客数は大幅に減少し目標は未達成となった。	令和5年8月			
なし															
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	歩行者の安全性に関する満足度(満足、やや満足の割合)	%	30.7	H28	/	/	41.1	/	/	案内・情報板、シェルター、照明灯の整備により駅前広場及びその周辺における、歩行者にとっての安全・安心な道路整備、道順のわかりやすさなどについての満足度が向上した。	—			
													その他の数値指標2	歩行者の安全性に関する満足度(不満、やや不満の割合)	%
	4) 定性的な効果発現状況	・今回整備した自転車駐車場の稼働率が非常に高い状況である。 ・今回整備した西口ポケットパークの利用についてはコロナ禍の影響もあり、限定的な活用に留まっているものの、西口ポケットパークに係る利用法等についての問い合わせが多い状況である。													
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況											今後の対応方針等	
	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											—	
			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											—	
	住民参加プロセス	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											—	
持続的なまちづくり体制の構築	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											—		
		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											—		

様式2-2 地区の概要

第2期松橋駅周辺地区(熊本県宇城市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 交通結節機能の強化とにぎわいと交流の創出(「歴史・未来・自然がとけ合う にぎわいとふれあいのまち」を目指して)		歩行者の安全性に関する満足度	単位:ポイント	3.08	H28	3.36	R2	3.35	R2
目標1 駅前広場や駐車・駐輪場及び情報発信機能の強化による快適で安全・安心な交通結節拠点を形成し、歩行者・自転車利用者の安全性確保と誰もがアクセスしやすい松橋駅を達成する。		松橋駅利用者数(乗降客数)	単位:人/日	3,499	H28	3,499	R2	2,680	R2
目標2 住民による継続的なまちづくりや交流の場を整備し、宇城市の玄関口及び定住の場として、駅周辺の賑わいを高める。		—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—

凡 例

基幹事業

提案事業

関連事業

松橋駅西口駐車場整備【地域生活基盤施設】

松橋駅西口自転車駐輪場整備【地域生活基盤施設】

松橋駅西口ポケットパーク整備【地域生活基盤施設】

シェルター・照明灯【高質空間形成施設】

(仮)東部幹線1号線整備事業

街路灯整備

松橋駅東口駅前広場(道路)

松橋駅東口自転車駐輪場【地域生活基盤施設】

案内・情報板【地域生活基盤施設】

情報発信コーナー整備【地域創造支援事業】

区域全体を対象とした事業内容
(事業活用調査) □事業効果分析
(地域創造支援事業) □観光案内マップ・パンフレット作成 □まちづくりイベント

まちの課題の変化	・東口駅前広場、駐輪場(西口・東口)、駐車場(西口)、案内・情報板、照明灯、シェルター整備により、歩行者の安全性や移動の連続性等が確保され交通拠点が形成された。 ・西口ポケットパーク整備により、交流・にぎわいを形成する空間が確保された。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	・今回整備された東口駅前広場、駐輪場(西口・東口)、駐車場(西口)、案内・情報板、照明灯、シェルター整備等の適切な維持管理により各種施設の機能維持を図る。 ・必要に応じて情報板や観光マップ等の情報更新を図る。 ・松橋駅西口ポケットパークを活用した交流にぎわいの推進 ・情報発信コーナーの効果的活用(情報発信の充実)

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

[illegible]

添付様式1ー② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	情報発信コーナー整備	20.0	・情報案内版整備	10.7	・情報案内板整備		影響なし	●	
	観光案内マップ・パンフレット作成	3.0	・ワークショップの開催 ・マップの作成・印刷	3.0	・ワークショップの開催 ・マップの作成・印刷		—	●	
	まちづくりイベント	3.0	・イベント開催	3.0	・イベント開催		—	●	
事業活用調査	空き店舗対策調査	3.0		0.0		令和元年に計画変更して削除	影響なし	—	—
	事業効果分析	5.0	・事後評価 ・評価委員会の開催 ・アンケート調査の実施	5.0	・事後評価 ・評価委員会の開催 ・アンケート調査の実施		影響なし	●	
まちづくり活動 推進事業	松橋駅周辺まちづくり勉強会	6.0		0.0		令和元年に計画変更して削減。	影響なし	—	—

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
	宇城市循環バス社会実験				平成29年～平成31年	平成29年～平成31年	実施していない	
	(仮)東部幹線1号線整備事業				平成29年～平成31年	平成29年～平成31年	事業実施中	
	空き店舗対策調査	宇城市全域			平成30年～平成30年	平成29年～平成31年	実施していない	
	街路灯整備	駅前商店街			平成29年～平成31年	平成29年～平成31年	実施していない	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	歩行者の安全性に関する 満足度	ポイント	・宇城市都市整備課が実施する駅利用者アンケート調査において、「歩行者にとって安全・安心な道路の整備」に係る満足度。(不満1点、やや不満2点、普通3点、やや満足4点、満足5点)	2.50	H22	3.08	H28	3.36	R2	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	●	3.35	事後評価	△	
指標2	松橋駅利用者数(乗降客数)	人/日	・JR九州が計測する松橋駅の一日当たりの利用者数(乗車数、降車数、定期利用者数)	3,352	H22	3,499	H28	3,499	R2	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	●	2,680	事後評価	×	
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	駅前広場と一体的に駐車場、駐輪場、照明灯、シェルター等と一体的に整備されたことにより歩行者にとって安全・安全性の満足度が向上した。しかし、満足度調査実施時には東口駅前広場整備が未完であったこともあり目標値には若干到達していないが、東口駅前広場整備が完了することにより1年以内の数値目標の達成の可能性は高い。	
指標2	情報発信コーナーの設置、松橋駅西口ポケットパークの整備、観光案内マップ・パンフレット作成等により駅利用者の休憩、憩いの場が生まれたとともに、訪れる人(駅利用者)の移動の連続性は確保されたものの、新型コロナウイルスが大きく影響し目標値には届かなかった。また、この状況が1年後に大きく好転することは見込めず、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	市民アンケート調査結果を用いたが、アンケート調査実施年度と、事業評価の実施年度が一致しなかったため、評価値を推計値とし、1年以内のフォローアップにより確定値とする。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	歩行者の安全性に関する 満足度(満足、やや満足 の割合)	%	・宇城市都市整備課が実施する駅利用 者アンケート調査において、「歩行者に とって安全・安心な道路の整備」に係る 満足度。において「満足」「やや満足」と 回答した人の割合	—		30.7	H28	モニタリング			案内・情報板、シェルター、照明灯等整備によ 駅周辺における歩行者の安全性や利便性に 係る効果は確実にあったと思われ、「満足」「や や満足」の割合向上により効果を説明する。	—
								事後評価	確定 見込み	● 41.1		
その他の 数値指標2	歩行者の安全性に関する 満足度(不満、やや不満 の割合)	%	・宇城市都市整備課が実施する駅利用 者アンケート調査において、「歩行者に とって安全・安心な道路の整備」に係る 満足度。において「不満」「やや不満」と 回答した人の割合	—		28.7	H28	モニタリング			案内・情報板、シェルター、照明灯等整備によ 駅周辺における歩行者の安全性や利便性に 係る効果は確実にあったと思われ、「不満」「や や不満」の割合減少により効果を説明する。	—
								事後評価	確定 見込み	● 20.6		
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標4								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標5								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・今回整備した自転車駐車場の稼働率が非常に高く利用者から評価されていると思われる。
- ・今回整備した西口ポケットパークの利用についてはコロナ禍の影響もあり、限定的な活用に留まっているものの、西口ポケットパークに係る利用法等についての問い合わせが多い状況である。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民意見を反映し協働のまちづくりを進めていく。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 コロナの影響)	—	—
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
「松橋駅周辺地域まちづくり勉強会」の継続的展開	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 1期で組織が自立したため)	—	—	—
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—	—

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
宇城市都市再生整備計画事後評価検討ワーキング会議	・市長政策室長、企画課長、地域振興課長、土木課長、商工観光課長、都市整備課長	令和3年12月13日	都市整備課(都市再生整備計画担当)

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		その他の数値指標1		その他の数値指標2							
指 標 名		歩行者の安全性に関する満足度(満足、やや満足の割合)		歩行者の安全性に関する満足度(不満、やや不満の割合)							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路改良事業(松橋駅東口駅前広場)	◎	案内・情報板、シェルター、照明灯の整備により駅前広場及びその周辺における、歩行者にとっての安全・安心な道路整備、道順のわかりやすさなどについての満足度が向上した。	◎	案内・情報板、シェルター、照明灯の整備により駅前広場及びその周辺における、歩行者にとっての安全・安心な道路整備、道順のわかりやすさなどについての不満度が減少した。						
	地域生活基盤施設(松橋駅東口自転車駐輪場)	○		○							
	地域生活基盤施設(松橋駅西口自転車駐輪場)	○		○							
	地域生活基盤施設(松橋駅西口駐車場)	○		○							
	地域生活基盤施設(松橋駅西口ポケットパーク)	○		○							
	地域生活基盤施設(案内・情報板)	◎		◎							
	高質空間形成施設(シェルター)	◎		◎							
	高質空間形成施設(照明灯)	◎		◎							
提案事業	地域創造支援事業(情報発信コーナー整備)	—		—							
	地域創造支援事業(観光案内マップ・パンフレット作成)	—		—							
	地域創造支援事業(まちづくりイベント)	—		—							
	事業活用調査(事後効果分析)	—		—							
関連事業	宇城市循環バス社会実験	/		/							
	(仮)東部幹線1号線整備事業	○		○							
	空き店舗対策調査	/		/							
	街路灯整備	/		/							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後は駅前広場、駐輪場、駐車場、ポケットパークやシェルター、照明灯の適切な維持保全管理によりそれぞれの機能維持を図る。また、案内情報板は必要に応じて情報更新を図っていく。	今後は駅前広場、駐輪場、駐車場、ポケットパークやシェルター、照明灯の適切な維持保全管理によりそれぞれの機能維持を図る。また、案内情報板、観光案内マップ・パンフレットについては必要に応じた情報更新を図っていく。				
-------	---	--	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

[illegible]

※目標未達成への影響度

××:事業が効果を發揮せず。

指標の目標未達成の直接的な原因となった。

X: 事業が効果を發揮せず。

指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△・数値目標が達成できなかった中でも、

△. 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。

一、事業と指標の間には、もともと関係がないことが

明確なので 評価できない。

※要因の分類

分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	松橋駅東口駅前広場の早期完成により駅及び駅周辺の利便性のさらなる向上を図っていく。	コロナ禍においては限定的になってしまうが、整備したポケットパークでのイベントの開催等により新たな賑わいの創出を図る。				
------------------	---	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
宇城市都市再生整備計画事後評価検討ワーキング会議	・市長政策室長、企画課長、地域振興課長、土木課長、商工観光課長、都市整備課長	令和3年12月13日	都市整備課(都市再生整備計画担当)

添付様式5－② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
宇城市の玄関口として、交通結節機能の強化による歩行者の安全性や移動の連続性を確保することが必要	東口駅前広場、駐輪場(西口・東口)、駐車場(西口)、案内・情報板、照明灯、シェルター整備により、歩行者の安全性や移動の連続性等が確保され交通拠点が形成された。	—	—
駅周辺の定住の拠点及び宇城市の中核拠点としてのにぎわいの創出が必要	西口ポケットパーク整備により、交流・にぎわいを形成する空間が確保された。	交流・にぎわい創出を形成する空間は確保されたが、にぎわい創出に結びついていない。	

添付様式5－③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歩行者の安全性や移動の連続性の持続	・適切な維持管理による各種施設の機能維持を図る。 ・整備された駐車場や駐輪場についての情報周知 ・歩行空間の充実 ・必要に応じて情報板や観光マップ等の情報更新を図る。	・各種施設の保全管理
	交流にぎわい空間の確保	適切な維持管理による各種施設の機能維持を図る。	・各種施設の保全管理

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	交流にぎわいの創出	・松橋駅西口ポケットパークを活用した交流にぎわいの推進 ・情報発信コーナーの効果的活用(情報発信の充実)	・東口歩道整備 ・コミュニティバス運行(社会実験) ・各種イベント開催

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4－②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4－③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5－②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	歩行者の安全性に関する満足度	ポイント	3.08	H28	3.36	R2	確定		3.35	△	あり ●	令和4年11月	松橋駅利用者を対象とした満足度調査により計測	—
指標2	松橋駅利用者数(乗降客数)	人	3,499	H28	3,499	R2	確定	●	2,680	×	あり ●	令和5年8月	JR九州が発表する令和4年度駅乗車数を確認	令和3年度まではコロナの影響が想定されるため令和4年度の数値で実施
指標3							確定				あり			
指標4							確定				あり			
指標1							見込み	●			なし			
指標2							見込み				なし ●			
指標3							見込み				なし			
指標4							見込み				なし			
その他の数値指標1							確定							
その他の数値指標2							見込み							
その他の数値指標3							確定							
その他の数値指標4							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・案内・情報板等、シェルター等の施設整備により、駅前周辺における、安全・安心な歩行空間の確保、駅利用者の満足度、利便性が向上し一定の事業効果を確認することができた。	ハード整備とともに各種イベント開催などソフト事業も連携し賑わいの創出を図ることが必要である。
	うまくいかなかった点	・駅前整備が遅れたこと、コロナウイルス蔓延の影響により指標1、指標2の目標が達成できなかった。 また、交流賑わい創出を形成する空間は確保されたが賑わい創出までにはいたっていない。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		まちづくり目標、実施事業による効果を踏まえた適切な指標設定が必要である
	うまくいかなかった点	・目標、実施事業と整合性に課題がある指標設定が一部あった。 ・外的要因(新型コロナウイルス)に大きく左右される「駅利用者数(乗降客数)」を指標として設定したことにより事業効果発現が見えずらくなってしまった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	-	・市民等の積極的な意見が出やすくなるような工夫(縦覧場所の設定、わかりやすい資料)が必要である。
	うまくいかなかった点	・事後評価シートの公表については、活発な意見が得られなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・行政における関係各課及び市民からの意見や評価委員会の意見を取りまとめ、円滑に事業及び事業評価が実施できた。	-
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

-

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和4年1月4日～1月18日	令和4年1月4日～1月18日	担当課への郵便、電話、ファックス、電子メール 閲覧窓口への直接提出	都市整備課
広報掲載・回覧・個別配布	広報にて市のホームページで原案を公表していること及び都市整備課で縦覧している旨を掲載	令和4年1月1日発行 広報1月号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市整備課での原案閲覧	令和4年1月4日～1月18日	令和4年1月4日～1月18日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	山迫薫(熊本県建築士会宇城支部) (元・宇城市都市計画審議会委員)	令和4年1月28日	都市整備課(都市再生整備計画事業担当課)	宇城市都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	大塚泰治(御領本区区长) 柏木敏秀(5区区长)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・掲げた目標に従って十分内容が汲み取れる結果になっているとの意見があった。 ・目標2に係る「定住の場」というのは、今日、明日に結論が出るものではなく、20年、30年の目標を掲げて少しずつ成長させていくもので、今回の事業で将来が楽しみな駅周辺整備が出来たとの意見があった。
	実施過程の評価	・実施過程の評価について妥当であることが確認された。
	効果発現要因の整理	・効果発現の評価について妥当であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表について妥当であることが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・駅東口側での民間駐車場について駐車場の所在地の情報発信や一定のルールづくり等市と連携し実施していけないかとの意見があった。 ・宇城市のパンフレット等を目立つところに置くなどの情報発信に工夫が必要という意見があった。
	フォローアップ	・フォローアップを計画通り実施するようにとの意見があった。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第3回変更)

第2期松橋駅周辺地区

熊本県 宇城市

令和2年8月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

・様式は、A4印刷とすること。

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	熊本県	市町村名	宇城市	地区名	第2期松橋駅周辺地区	面積	22.8	ha
計画期間	平成29年度～令和2年度	交付期間	平成29年度～令和2年度					

目標
大目標 交通結節機能の強化とにぎわいと交流の創出（「歴史・未来・自然がとけ合う にぎわいとふれあいのまち」を目指して）
目標1 駅前広場や駐車・駐輪場及び情報発信機能の強化による快適で安全・安心な交通結節拠点进行形成し、歩行者・自転車利用者の安全性確保と誰もがアクセスしやすい松橋駅を達成する。
目標2 住民による継続的なまちづくりや交流の場を整備し、宇城市の玄関口及び定住の場として、駅周辺の賑わいを高める。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況
・本市は、JR鹿児島本線、三角線、九州自動車道が南北に走り、古くから交通の要衝地として栄えたまちで、熊本地域、八代地域、天草地域、鹿児島地域を結ぶ結節点として、県央・県南地域の発展にとって重要な地域である。 ・この中で、松橋駅周辺地区は、総合計画、都市計画マスタープラン等の上位関連計画において、宇城市の玄関口及び中心市街地として都市機能の集積や魅力的な街並みの形成と居住環境の整備の他、JR駅を中心とした公共交通体系の構築等を図ることを位置づけており、本市の玄関口、商業・業務・行政機能が集積する中枢拠点としての役割を持っている。 ・このような位置づけを踏まえ、松橋駅周辺の具体のまちづくり計画として、平成21年1月「宇城市松橋駅周辺地域まちづくり基本構想・基本計画」を策定した。 ・当該計画では、「玄関口としての交通機能の不足」「駅東西の市街地の一体性の欠如（不知火町と松橋町の行政界で別れていた経緯もあり）と安全性の欠如」「駅前商店街の低迷」等を課題とし、この解決に向けて、『歴史・未来・自然がとけ合う にぎわいとふれあいのまち』をテーマに、各種まちづくり方針を示している。なお、計画策定にあたっては、松橋駅周辺地域まちづくり委員会（地域代表者による会議）やアンケートによる意見収集を行うなど、策定過程で住民参加によるまちづくりを進めてきた。 ・これら（合併後の一体性の確保や宇城市の玄関口としての個性あるまちづくりによる地区の再生に向けた）駅周辺のまちづくりを実現するため、平成24年から、松橋駅周辺地区都市再生整備計画事業（第1期）を進めている。この中で、「交通結節機能の強化とにぎわいと交流の創出」を目標として、自由通路、西口駅前広場、駅舎（関連事業）の他、住民による駅周辺のまちづくり勉強会等の取り組みを進めてきたところである。 ・しかし、交通結節機能の整備においては、市街地・商店街に面するメインの東口駅前広場の整備、その他駐輪場等の整備は完成しておらず、交通結節として機能が不足している。加えて、駅前広場が未完成であることから、駅東口の商店街、市街地との連続性も弱く、玄関口としての一体性に欠けている。 ・また、「松橋駅周辺まちづくり勉強会」を開催し、賑わい形成に向けたイベントの検討、駅周辺の空き店舗対策、駅周辺のまちづくりについて、住民との協働による検討を進めてきたところであるが、その実現化に向けた取組みにつなげる必要がある。 ・特に、都市計画マスタープランでも掲げるように、コンパクトな市街地形成において、定住拠点となる駅周辺のまちづくりは重要であり、集中的な投資・整備を行い、第2期計画を実施することで松橋駅周辺まちづくりの達成を目指す。
課題
・宇城市の玄関口として、交通結節機能の強化による歩行者の安全性や移動の連続性を確保することが必要 ・松橋駅は、駐車場、駐輪場をはじめ、交通結節点としての機能が弱く、駅の利用のしやすさ、訪れやすさに課題を抱えている。 ・特に、松橋駅東口は、駅前広場が狭く、各種車両が交錯するとともに、歩行者動線が確保されていない。さらには迷惑駐輪が横行するなど、駅利用者にとって危険な状況にある。 ・駐輪場での自転車盗難が発生しており、防犯上の課題となっている。 ・松橋駅前は、宇城市の玄関口として位置づけられているが、路線バス等による駅と商店街や市役所等の拠点地区間の連携が弱い状況にある。 駅周辺の定住の拠点及び宇城市の中枢拠点としてのぎわいの創出が必要 ・松橋駅東側には既存の商店街が立地するが、空き店舗の増加、公園、広場など都市施設が不足し、地区の回遊性も乏しく、中心地としてのにぎわいが衰退している状況にある。 ・将来、環境に配慮したコンパクトなまちづくりを進めていくためにも、駅周辺の一体的なまちづくりを進めながら、本地区を定住の拠点として、住環境の安全・安心面の確保及び環境への配慮など、付加価値の高いまちづくりが望まれる。
将来ビジョン（中長期）
・第1次総合計画では、「美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた未来に輝くフロンティアシティ・宇城」を将来像として位置づけ、「誰もが暮らしやすい都市（まち）づくり」「誇りあるふるさとづくり」「力強い産業作り」を目指し、強くやさしい未来都市の基盤を築き、広い可能性を秘めた開拓都市を市民協働で進めることを目指している。特に、駅周辺地域は、宇城市の玄関口の一つとして、駅周辺の機能性を高めるため、東西駅前広場や自由通路等を整備し、安全性や利便性を高めることを位置付けている。 ・宇城市都市計画マスタープランでは、「水と緑豊かな環境を未来につなぐ都市づくり」「質の高い居住環境を創出し魅力と活力に満ちた都市づくり」「伝統文化に彩られ、活発な交流を育む市民が主役の都市づくり」を将来都市像に掲げ、美しい自然景観の形成やコンパクトシティ化、中心市街地の活性化等の方針を定めています。特に、駅周辺地域を含む西部地域の将来像を「宇城市の中心市街地にふさわしい ゆとりとうるおいある魅力的なまち」とし、この将来像の達成にむけて、本市の玄関口として駅や周辺の利便性の向上、商店街の活性化、魅力的な都市景観の醸成などを基本方向として示している。 ・宇城市松橋駅周辺地域まちづくり基本構想・基本計画では、『歴史・未来・自然がとけ合う にぎわいとふれあいのまち』をテーマに、「1. かつての歴史的な中心地としてのにぎわいの再生」、「2. 公共交通の利便性向上による、歩いて暮らせるまちづくりの推進」、「3. 県央における新たな産業・交流・定住拠点の創出に向けた、計画的なまちづくりの推進」、「4. 誰もが安全に安心して暮らせる都市空間の創出と、環境にやさしいエコタウンの形成に向けた、みんなにやさしいまちづくりの推進」、「5. 市民・行政が協働して進める、みんなのまちづくりの推進」が基本方針として位置づけている。

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
歩行者の安全性に関する満足度	ポイント	松橋駅利用者アンケート調査による「歩行者の安全性」に対する満足度評価をみる	松橋駅東口駅前広場の整備をはじめ、交通結節機能の強化を図る事で、訪れやすく、安全な交通環境の創出を目指すものとし、歩行者の安全性に関する満足度を設定する。 ※満足度の平均値は、「1不満」～「5満足」の評価点を平均したもので、5に近いほど満足度は高い	3.08	H28	3.36	R2
松橋駅利用者数（乗降客数）	人/日	松橋駅の一日あたりの利用者数（年間乗降客数に対する日平均）	訪れる人の起点となり、地域住民の交流拠点となるスペースの整備や市民主体のまちづくりの展開により、松橋駅周辺への集客を増加させ、賑わいを高めることを目指すものとし、松橋駅利用者数（乗降客数）を設定する。 （※H17～H22年データによる将来推計ではR3年の駅利用者数は減少見込みであり、本指標の目標値は計画達成により現状維持を目指す）	3,499	H28	3,499	R2

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1:交通結節機能の強化による快適で安全・安心な都市環境の創出		■松橋駅東口駅前広場【道路:基幹事業】 ■松橋駅東口駐輪場【地域生活基盤施設:基幹事業】 ■松橋駅西口駐車場【地域生活基盤施設:基幹事業】 ■松橋駅西口駐輪場【地域生活基盤施設:基幹事業】 ■案内・情報板【地域生活基盤施設:基幹事業】 □観光案内マップ・パンフレット作成【地域創造支援事業:提案事業】 ○宇城市循環バス社会実験【関連事業】 ■照明灯【高質空間形成施設:基幹事業】 ■シェルター【高質空間形成施設:基幹事業】 ○街路灯整備【関連事業】
宇城市の玄関口として誰もが訪れやすい交通環境の整備 →宇城市の玄関口となる松橋駅について、歩行者・自転車・車が錯綜する問題を改善し、ひとにやさしい安全・安心な交通環境の創出にむけて、松橋駅東口駅前広場や駐輪場等の整備を図る。 松橋駅を起点として、各地域・施設へ誘う回遊ツールの提供 →宇城市の観光情報等の発信、また移動の円滑化にむけた交通情報の発信とともに、松橋駅周辺地区の回遊性の向上にむけて、案内板や観光マップ・パンフレット等を整備し、情報発信機能の向上を進める。 →松橋駅から、公共交通による商店街や市役所等の拠点地区への行きやすさを改善するため、循環バスの運行に向けた社会実験の検討を進める。 玄関口にふさわしい魅力的な都市空間の創出と駅前の顔づくり →本市の玄関口にふさわしいイメージの向上や駅前の顔づくりに向けて、松橋駅周辺の各種施設の高質化、修景整備を進める。		
整備方針2:宇城市の玄関口及び駅周辺の定住の場として、交流による新たなにぎわいの創出		
コンパクトな都市づくりの核となる駅周辺において、定住の場としても魅力ある都市環境を形成する。そこで、駅を利用する人の憩いスペースの機能に加え、定住の場として安全・安心な市街地や子育て世代が気軽に遊べる空間として、また人が集まり交流・賑わいを形成する空間として、ポケットパークの整備を進める。 →地域のにぎわいの再生や住民による協働のまちづくりを展開していくため、新たなイベントの検討及び実施を進める。		□情報発信コーナー【地域創造支援事業:提案事業】 □観光案内マップ・パンフレット作成【地域創造支援事業:提案事業】 ○空き店舗対策調査事業【関連事業】 ■松橋駅西口ポケットパーク【地域生活基盤施設:基幹事業】 □(仮称)まちづくりイベント【地域創造支援事業:提案事業】
その他		
○住民参加によるまちづくりの展開 ・第1期都市再生整備計画において実施した「松橋駅周辺地域まちづくり勉強会」の検討結果をはじめ、住民意見を反映し、協働のまちづくりを進めていく。 ・特に、第1期の勉強会を通じて、空き店舗を活用した住民による「街なか図書館」がオープンしており、イベントの検討、空き店舗の検討については、第1期計画における事業成果の他、必要に応じて本勉強会の継続的な取り組みを推進していく。 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 ・今回の事業により整備された内容について市民に広く知ってもらい、また活用してもらえるよう、情報の発信を行っていく。		

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

合計(A+B)	487.0
---------	-------

● 仕事業費

日本銀行

0